（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270400932		
法人名	有限会社　鴬　声		
事業所名	グループホーム本明の家		
所在地	長崎県諫早市本明町455番地1		
自己評価作成日	平成　28　年　9　月　日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4270400932-00&PrefCd=42&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成　28　年　11　月　7　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームとお家族が一体となって介護していくことを一番の目標にしております。入居時に生活歴をしっかりとお聞きし、お家族様には入居1週間位は生活状況を報告し、安心して頂くよう努力しています。また、朝の申し送り時に利用者のことで、気付き等を職員で共有するよう努め、健康管理面においても、少しでも変化があればお家族様に報告すると共に医師の指示を仰ぎ対処して、その後の経過も報告するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは、家族の介護をきっかけに私有地である当地に開設して14年余りを経過している。ホームは、一級河川の中流域の河川側にあり、景観と日当たりも良く、床板に黒松の木材を使用した温かみのあるホームの中で、入居者の残存能力を活かし日常生活の中でのリハビリを考慮した支援に努めている。立地上、特に留意している事は、台風到来時の降雨量を早期に予測して、早期に高台への避難を今年度において2回も実施して、入居者の安全確保に努めている。代表取締役及び施設長は、入居者の生命を第一に安全避難を心掛けている。代表取締役は、自治会長や老人会の役席を務める事で、地域の祭りの訪問や避難訓練時の入居者の見守りへの協力関係への構築に繋がっている。職員は、チームワークを図りながら研修での学びを実践に反映して、通院支援や医療との連携を図りながら、入居者へのケアを取組み、家族の安心に繋がる支援を心掛けている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　1

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のカンファレンス等を通じながら意見交換を行い、実践に努めている。	職員は、入居者一人ひとりを尊重して、できることの潜在能力を導いて安心感のある日々が過ごせる様に家庭的な雰囲気の中で支援に努めている。職員は、理念を意識して家族の安心に繋がる支援と地域の方に馴染み、理解と協力が得られる様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小学校や自治会の行事の招待を受けて交流を行っている、またホームの行事への参加をお願いし交流を行っている。	ホームの代表取締役は、老人会長や保育園の理事又、元自治会長を努めている事で、地域の行事を通じて交流もあり、老人会の踊りの披露や地域のお祭りで子ども達の浮立の慰問に繋がっている。入居者の安全確保についても協力関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を受け情報提供等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	時々は外部の講師に依頼し、専門知識の導入に努めている。	運営推進会議は、地域の前任の民生委員を含めて3名の参加と老人会・近隣住民・家族に参加頂き、2か月を目途に開催している。会議は、議題に沿って入居状況や介護における法的責任と事故対応について、保険会社支社長に参加頂き双方向に話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、議題によっては講師を依頼して意見交換を行っている。	代表取締役は、施設長との連携を図りながら、生活保護の手続きや介護保険の更新手続きにおいて、地域包括支援センター職員及び市職員と共有を図りながら取組んでいる。又、さわやか相談員を受け入れ報告内容を有効に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のチャイム、ナースコール等使用し、行動制限をしないよう努めている。また言葉遣いによる拘束に留意している。	施設長は、入居者の安全を第一に見守り体制を怠らない様に職員と共有して支援に努めている。入居者の帰宅願望で落ち着かない時は、職員が寄り添い言葉かけを心掛けたり、夜間時の転倒予防の為にセンサーマットや鈴を使用して、支援を工夫している。研修での学びは、職員相互に周知を図り実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	運営推進会議やカンファレンスの議題に取り上げて話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括と連携をとり、後見制度を活用する機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及び契約書に基づき十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの作成時、又面会時に利用者の状況を家族に報告し、意見を求めて反映させるよう努めている。	職員は、入居者の状況報告やお便りを発送して、家族の理解と協力を得ている。運営推進会議への参加及び訪問する家族は限られているが、家族の要望を伺い2か月に1回の散髪や支援についての意向を実践している。家族会は実施していない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月１回のカンファレンス時機会を作っている。 又運営推進会議には交代で参加の機会を持っている。	職員は、月１回のカンファレンスや朝夕の申し送り時に伝達事項の話し合いを行っている。職員は、勤務の早退やシフトの変更を要望して、チームワークの継続に繋げている。又、研修内容を選考して、学びを実践できる様に研修報告を周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休、健康面等を配慮しながら、環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの連絡協議会主催の研修や実務者研修等の受講の機会を作り、又資格取得奨励を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は少ないがグループホーム連絡協議会の研修や交流会に出来るだけ参加する機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と連携をとりながら、ゆっくりと気分を落ち着いて貰えるよう声掛けしながら時間をかけて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の1週間は、朝夕電話にて家族に状況を報告し、家族との情報共有により、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との連携により情報の共有に努め、本人の居心地良い環境づくりに努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士の配置や残存能力を活用した生活で関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、生活状況を伝え、時には電話での相談を行っている。健康管理状況は毎月文書にて伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々自宅近くへのドライブをしたり、知人等からの電話の取次ぎ、又家族からの情報を得て会話に取り入れる様にしている。	入居者にとって安心して過ごせる「GH本明の家」が我が家で、自宅へ帰宅しても落ち着かず、職員との関わりの中に安堵を得ている。家族との関係継続のある入居者へは、衣類の交換の依頼を電話で伝えて訪問の機会に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の会うもの同士の配置に配慮し、ゲーム等も共同作業で行ったり、出来るだけ孤立しないように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されても、入院先へ面会又その後の生活相談に乗っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を知り、本人の気持ちを汲み取るよう努めている。	職員は、必要に応じてタクシーの運転手などに成り代わり、気持ちが落ち着く対応に心掛けて穏やかに関わり入居者の受け入れに応じて支援している。日常生活の中で入居者の思いや意向に寄り添い、安全第一の支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等からの情報を得て職員が共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を把握支援し、又バイタルチェックによりその日の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を把握し、家族の意見、全職員の意見を反映して作成している。	介護計画は、職員担当制で3か月を目途に交替の上、作成した内容をカンファレンスで検討して作成している。介護計画の見直しは、長期6か月及び短期3か月を目途に評価して、入居者の食欲低下による支援の変更などを共有する事で、次の計画の支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録を記入し、情報把握に努めケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に適応した通院支援や外食、花見催物等で一緒に食事提供し、過ごして頂くようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者が老人会長で、前自治会長のため地区社協の役員、保育園の理事等地域との接点も多い。活用できる機会をとらえ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員と共に通院・受診。状態により往診。又検査等の状況により家族の同行をお願いしている。かかりつけ医は家族が希望する医療機関となっている。	職員は、入居者一人ひとりのかかりつけ医と連携を持って健康保持に努め、予防接種や往診についても家族の承諾の下、受診の支援に繋げている。職員は、入居者の身体的負担を考慮して、待ち時間の少ない受診を工夫している。家族の通院支援の協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師を兼務しており利用者の変化等は直ちに看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法の情報を医師に提供し、家族とも連携しながら速やかな退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後早めに本人、家族の意向を確認すると共に、随時意思を確認しながら医療と連携し支援している。	施設長は、入居の際に「重度化した場合における対応による指針」の文書により、家族に説明をしている。看取り支援は、現在7名に至っている。看取りの支援に際しては、連携医師の往診や家族に説明と確認をその都度伺い、職員が共有して支援に取組んでいる。入居者の意志を尊重して、家族の要望に沿った支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修機会には受講しているが、全員の実践力は不十分である。随時看護師の指導に努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練には地域住民の協力を得ながら実施。又、河川の傍なので水害避難に基準を定め自主避難体制をとっている。	避難訓練は、消防署立ち合いで夜間想定の訓練及び自主訓練を実施している。河川側にあるホームの立地を考慮して、台風時の豪雨による川の氾濫を危惧して、事前に高台への避難を今年度2回も実施している。常に、入居者の安全第一の支援を心掛けている。防火自主点検を毎月取組み、不備な点の補充に消火器を追加している。避難訓練に老人会の地域の住民に参加頂き、入居者の見守りを切にお願いしている。	自然災害における訓練の実施と反省点や記録は、次の訓練に反映できる様に詳細に取組んでいる。火災における訓練の写真等はあるが、訓練の検証内容の記載が不十分なので、今後に反映できる様な実施記録と(入居者の等身大の写真・既往歴・服薬状況・車いす使用又は、自立歩行・家族の連絡番号)入居者緊急持ち出しファイル及び消費期限明記の備蓄リストの作成を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに留意すると共に接遇の仕方に配慮し対応している。	職員は、入室の場合「お部屋に入ります」と声掛けをして業務に取組んでいる。入居者のプライドを保ちながら、失禁時の衣類の交換時など意思の確認を図りながらの支援を心掛けている。入居者一人ひとりに言葉かけを心掛けて、声のトーンや挨拶の声掛けを留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表現や行動から本人の思いを汲み取り支援できるよう声掛け寄り添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間は職員の体制も考慮しながら、可能な範囲で各人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師には定期的に出向いて頂いている。季節に合ったものを着れる様に更衣時の身だしなみ等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえを職員と一緒にして頂いている。又おやつ等に配慮している。	職員は、入居者に食べたい物を聞き取り、毎月職員が交替で献立表を作成している。入居者の喫食状況から窺える嗜好調査の一覧を基に、日常的な配膳を取組み歩行訓練を促して体重管理に努めている。又、知人の栄養士に献立へのアドバイスを得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量を把握し、排泄チェック表を活かし、必要により補給している。年に1回管理栄養士に献立表を見て貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、自力で出来ない方は介助してケアに努めている。必要により歯科医師に往診して頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活かし、声掛けし介助している。	入居者の排泄状況に応じて、リハビリパンツにパットの使用や布パンツに移行したりして、定期的な言葉かけによる排泄の自立を促している。職員は、排便の有無を確認して、食事と水分補給や薬の服用を判断して、できるだけ無理のない排便になる様に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活かし、水分摂取の声掛けを行い、必要により便秘薬の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が介助支援の為2日に1回としている。保清のため毎日入浴等を行う方もいる。	入居者の入浴支援は、週3回を目途に実施して、入浴リフトも備えている。入浴拒否の入居者は、息子さんが言葉をかける事で入浴に繋がっている。入浴の際に、皮膚の異常を見つけたら早期の治療を心掛けている。失禁時の入浴や清拭を支援して、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息、睡眠は自室やホールのソファー等で自由にして頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕と分かりやすいように区別して、服薬説明書に基づき確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ、洗濯物干しや取り入れの手伝い等で仕事の役割を。能力にあったゲームや生活暦を活かした会話等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には十分ではないが、天気の良い日に周辺の散歩、時にはドライブに声掛けし出かけている。	花の開花時期の外出は、入居者が排泄支援で使いやすい場所を考慮して、外出の機会に外食も実施している。入居者の身体状況や天候を配慮して、入居者一人ひとりに応じたドライブや近隣の散歩で外気浴の外出支援を取組んでいる。訪問時は、天候も良く、職員と近隣へ散歩に出かけられている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員お金は持たせていない。必要なものは希望を聞いて買っている。管理できない方は支援し家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は電話を掛けれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、カーテンの調節、空調に気を付けると共に花や飾り物等で季節感を出している。	共用空間は、黒松の床材を使用し温かみがあり、自然採光の取込みでとても明るく一段高い畳の間を設けてある。共用空間は、テレビやソファーを配置して職員の見守りの下、入居者がゆったりと寛ぐ事が出来る様に配慮している。入居者は、日常生活の中で廊下の歩行運動をする事で体重の調整を目標に努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、ソファー、畳、椅子等があり、思い思いに過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	様々であるが、本人馴染みの調度品等を持ち込み少しでも居心地良く過ごせるように配慮している。	居室は、花柄の防炎カーテンを使用し、入居者の好みの家具を持ち込み、家族の訪問時に居室で寛ぐ事も出来る様に配慮している。職員は、入居者の「我が家」として金銭管理の下、衣類の購入や必需品を整えて不自由のない日常生活の支援を取組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーにしている。また、手すりを取り付け自立支援につなげている。		